P80・A-2 西船 市指定史跡 見学自由

今なお水を湛える古井戸

葛羅の井

井戸は直径180cmほどの円形をしている

京成西船駅から徒歩8分ほど、民家が立ち並ぶ道から少し入ったところに「葛羅の井」はあります。現在はコンクリートで固められ、水も濁っていますが、水脈が富士山のふもとまで続いている、どんな日照りでも水が枯れないなど、さまざまな伝説が残っている井戸です。

文化9年（1812）には、天明期を代表する文人の大田南畝が「葛羅之井」を揮毫し、この井戸を讃え、『下総の勝鹿　郷は栗原に隷す　神は瓊杵を祀る　地は醴泉を出す　豊姫の鑒する所　神龍の淵　大旱にも涸れず　湛乎としてこれ円なり　名づけて葛羅と曰う　絶えざること綿綿たり』と詠みました。井戸の隣に立つ石碑にはその句が刻まれています。

▲戦後、散歩中の永井荷風により再発見され、世に知られることになった、葛羅の井の碑

所 船橋市西船6-4-5
☎ 047-436-2898（船橋市教育委員会 文化課）
交 京成電鉄 京成西船駅から徒歩8分
指 昭和40年3月17日

P80・A-2 西船／宝成寺 市指定史跡 見学自由

船橋市唯一の大名家関連の墓

成瀬氏の墓 附 墓誌

現在の船橋市西部、旧葛飾町一帯はかつて栗原郷といわれ、江戸時代に大名成瀬氏の領地でありました。宝成寺にある成瀬氏の墓所は、市内で唯一の大名関係の墓です。

成瀬正成は徳川家康の側近の一人で、天正18年（1590）に家康が関東に移封されるとすぐに栗原郷に4千石を与えられて大名に列しました。家康の9男義直が尾張徳川家を創設すると付家老として後見役に任ぜられ、元和3年（1617）に尾張犬山城主となりました。正成の死後、之成が栗原藩の2代目となり、その後1歳の之虎が跡を継ぎましたが、之虎も寛永15年（1638）に5歳で夭折したため、栗原藩成瀬家は断絶しました。一方犬山の成瀬家は存続し、明治時代には子爵になり、子孫が犬山城を所有しました。宝成寺は江戸における成瀬家の菩提寺とされていたので、一族の墓の一部が営まれ、明治9年（1876）までの墓碑が残されています。

また、墓地内には、之成とその殉死者3名の墓碑があります。殉死者を副葬した大名の墓は非常に珍しいものです。

所 船橋市西船6-2-30
☎ 047-436-2898（船橋市教育委員会 文化課）
交 京成本線 京成西船駅から徒歩5分
指 昭和45年5月20日

県内最大級の第7代犬山城主正寿の墓がある
（台石を除いた高さ約3.6m、幅90cm、厚さ40cm余り）